

目次

1. 例會記事.....page 1

2. 表紙の圖案の説明.....3

3. 講話 Mathematical Questions6

秋の果物.....20

4. 參觀日記.....34

5. 蓄音機の吹込を見る記.....36

6. 論說 國字改良と横書との關係を論ず... 37

7. 英文警句(其の一).....46

8. 本校圖書室新增加書名目錄.....48

9. 女子教育研究部の報告の一部.....52

10. 附錄 第一回學術談話會總會記事
報告(其の一).....56

例會及臨時會記事

大正三年十二月五日日本會臨時會を開き左の講演ありたり。

一、八ヶ岳土産 理一、四 平原よね

二、蓄音機の話 理一、三

毛利アキ

西田ぬい

田島とし

北川よね

三、音響學の理論と實際 理一、四 宮本冬

四、人造絹絲 理一、四 神林甫

1. 八ヶ岳土産。平原君の採收旅行談あり。尙矢部教授よりこの山に特産の長之助草に關する一場の講話ありたり。

2. 蓄音機の話。本紙に掲げたる蓄音機吹込を見る記を讀まれたし。

3. 物理學校雜誌大正二年の十二月號より三年の十月號に至る田邊尙雄君の論文を傳へたるものなり。詳しきことは同雜誌を讀まれよ。同氏は素人なれども「ヴァイオリン」の上手にて、黒人仲間にも知れたる人なり。

4. 人造絹絲。神林甫君人造絹絲を自ら作りて示す。その裝置も至極簡單にして一同の感興を引けり。同君

は研究生として在校の筈につき、實驗装置及び説明は次號に記載することを得べし。

大 正四年二月二十日本會例會を開き左の講演ありたり。

- | | | |
|-----------|------|---------|
| 一、生物の光 | 理二、三 | 小 澤 き よ |
| | | 古 市 静 |
| | | 加 藤 ふ じ |
| | | 朝 川 文 代 |
| 二、空中窒素の利用 | 理一、四 | 大 和 辰 野 |
| | | 小 出 さ き |
| | | 江 秀 子 |
| 三、窒素電球供覽 | | 安 西 喜 代 |
| | | 乙 部 教 授 |

1. 生物の光。動植物界にある光を放つもの數種に關し、多數の人の研究をまとめて話されたり。ひかりごけ其他にて撮りたる種々の寫眞は甚だ珍らしかりき。

2. 空中窒素の利用。智利硝石の消費し盡くされんとする今日空中窒素の利用は將來の大なる工業的事業なり。但實際硝酸を作りて示されざりしは惜むべし。

3. 窒素電球。昨年來市中に賣り出されたる窒素入

りの白熱燈にして、今年の初物理教室に購入したるものなり。従來のタングステン燈は一燭につき1.25 wattを要し、炭素線燈は3 wattを要するに係らず、この新白熱燈は3ワットを要するのみ、依て半ワットランプの名あり。たゞ現在の所 100 を單位とする如き燭光のものゝみ製造し得る不便あり。

表紙の圖案の説明

部 長 乙 部 教 授

雜 誌の號數を改めて、舊理科會々報の續きとなし、且つ全部を横書に改むる理由は、前號に於て述べたる如し。それに就いては客員諸賢並に在校の諸子にも、別段異議なきを認めたり。尙在米保井コノ氏並に校外の二三卒業生の人々は、特に局面を以て賛成の意を發表せられたり。既に横書を實行する以上表紙も亦改めざるべからず。依て岡田教授に圖案を請ひて完成したるもの即ち此の表紙なり。上欄に見ゆるは鳥を以て動物を代表するものなりといふ。顧ふに人間以外の動物中鳥程空間を自由にするものはあるまじ。下方にあるは物理化學のフラスコにして、其の中に挿したるは植物の花なり。フラスコの中に算盤の球を挿みて數學を代表す。凡て